

畑中敦子

1994年より大手予備校にて公務員試験対策の数的処理の講義を担当。独自の解法講義で人気を博し、看板講師として活躍する。2008年に独立し、執筆活動や大学講義を行い、著書累計は155万部を超える。2014年に(株)エクシア出版を設立、現在、代表として出版活動を行っている。

著書

- ・畑中敦子の数的推理 The BEST (年度版)
- ・畑中敦子の判断推理 The BEST (年度版) 他多数



マイナー分野が躍進！

本年4月～6月に実施された大卒程度公務員試験(1次試験)の数的処理の問題は、全体的には易化傾向にあり、基本を重視する問題が中心となりました。

試験別で見ると、国家総合職は昨年と比べるとかなり易化しましたが、一昨年も同様に易しかったので、来年はどうなるか注目です。

国家一般職は、判断推理は例年並みで、やや面倒な問題も含まれていましたが、**数的推理で易しい問題が増えた**分、全体としては易化といいでしょう。

国家専門職も、ここ2、3年易化傾向にあり、見た目は面倒そうでも**実際に解くと易しい**という問題が多く見られました。

一般職、専門職とも、ほぼ毎年「命題と論理」が出題されていますが、本年はいずれも出題がなく、専門職では、毎年必ず出題されていた「図形の計量」の出題がありませんでした。

裁判所職員は、ここ数年は割と易しい問題が中心でしたので、**例年並み**と言っていいでしょう。

東京都I類も、**A、Bとも例年並み**ですが、Bについては、易しい問題と面倒な問題の差が大きかったように思えます。

特別区I類は、判断推理、数的推理とも例年より易しめでしたが、空間把握でやや面倒な問題が見られ、また、ほぼ毎年出題される「暗号」は、本年も**例年どおり難問**でした。

地方上級も、難易度は例年どおりで、図形分野では相変わらず変わった問題が何問ありましたが、判断推理には、例年にあるような見た目に変わった問題がなく、**極めて普通の問題**でした。

そして、全体を通しての本年の特徴的な傾向として、**マイナー分野の出題が多かった**ことが挙げられます。ここ数年、メジャー分野の問題が大半を占め、マイナー分野の問題がほとんど出題されない傾向にありました。そうすると、全範囲を網羅するより頻出分野を徹底的に学習の方が効率は良かったわけですが、本年はその傾向が少し変わったこととなります。

まず、判断推理について、メジャー分野では、「順序関係」と「移動と軌跡」の問題は例年並みに出題されま

網羅性のある学習を！

したが、「位置関係」「対応関係」「命題と論理」の出題が例年に比べて少なく、逆に、マイナー分野である「**操作手順**」や「**一筆書き**」の問題などが増え、また、ここ数年少なかった「**立体の切断**」の出題がかなり増えました。

メジャー分野の多くは、条件を整理して「**考えて解く**」問題ですから、数多くの問題をこなすことで応用力を養う必要があります。それに対して、マイナー分野の問題には、「**覚えれば解ける**」問題も多く、「操作手順」にはそのタイプの問題がけっこうあります。本年、東京消防庁I類で出題された「**てんびん**」や東京都I類B(新方式)で出題された「**油分け算**」はその典型的なタイプです。

また、数的推理についてですが、メジャー分野である「図形の計量」と「整数」の問題は例年並みに出題されましたが、最頻出分野である「**確率**」の出題が減り、これまで少なかった「**場合の数**」が「確率」と同じくらい出題されていました。また、マイナー分野である「**暦算**」「**年齢算**」「**魔方陣**」などの出題が例年より多く、やはり、最近少なかった「**仕事算**」の出題が今年はかなり増えました。「暦算」や「魔方陣」にも、解くための**必要な知識**があり、知っていれば短時間で解くことが可能です。

すなわち、マイナー分野にはけっこう**コスパのいい問題**が多いわけですが、出題が少ないため、勉強していない、あるいは、一度覚えた解法を忘れてしまっているという場合も多いかと思います。しかし、本年のように出題が多いと、これを逃すのは極めてもったいないのです。なので、勉強方法としては、初めの段階で、なるべく網羅性の高い参考書などを使い、**マイナー分野も必ず一度は解法を覚える**ようにしましょう。そして、その後はメジャー分野中心に問題演習を行い、**直前期にもう一度マイナー分野の解法を確認**することをお勧めします。

では、本年、東京消防庁I類で出題された「操作手順」の問題をご紹介しますので、参考にしてください。

【問題】 大きさ、形、色が全く同じコインが90枚ある。その中の89枚は本物で重さはすべて同じだが、1枚だけ偽物が混じっており、偽物は本物のコインよりも軽い。天秤ばかり1台を使ってこの偽物1枚を確実に見つけ出すとき、天秤ばかりの使用する最少の回数として、最

も妥当なのはどれか。ただし、偶然わかった場合は最少の回数としないものとする。【東京消防庁I類2022】

- 1. 3回 2. 4回 3. 5回
- 4. 6回 5. 7回

【解説】

本問のように、「偽物が1個で本物より軽い(重いでも可)」という条件の場合は、全部で3個までなら1回、9個までなら2回、…というように、**3ⁿ個までならn回で見つけ出せる**という法則があります。この法則を知っていれば、「90」は3⁴=81を超え、3⁵=243までの**範囲**にありますので、答えは「5回」とわかります。

なお、具体的な手順は次のとおりです。

1回目に、90枚を30枚ずつに分けて、A、B、Cとし、AとBを天秤ばかりで比較します。ここで釣り合わなかった場合は、軽くなったほうに偽物が含まれ、釣り合った場合は、Cに偽物が含まれているとわかりますので、ここで**偽物を含む30枚**が判明します。

2回目は、その30枚を、さらに10枚ずつに分け、同様の作業を行うと、ここで**偽物を含む10枚**が判明します。

3回目は、その10枚を、3枚、3枚、4枚に分け、D、E、Fとし、DとEを天秤ばかりで比較します。ここで

釣り合わなかった場合は、軽くなった3枚に偽物が含まれていますので、4回目の操作として、その3枚のうち2枚を天秤ばかりで比較すると、1、2回目と同様に、どれが偽物が判明します。

また、3回目で釣り合った場合は、Fの4枚に偽物が含まれておりますので、これを2枚ずつに分けて、4、5回目の操作として、それぞれを天秤ばかりで比較すると、どれが偽物が判明します。

これより、4回目または5回目の操作で偽物を見つけることができますが、問われているのは「**確実に見つけ出す**」ための回数ですから、**最少5回**となり、正解は肢3です。

このように、偽物が1つで、本物より重いか軽いかわかっていれば、3枚までなら天秤ばかりを1回使用すればわかります。また、4個以上9個以下の場合は、3個以下のグループ3つまでに分けて1回使用すれば、どのグループに偽物が含まれているか判明しますので、そのグループでもう1回使用し、2回の操作で判明します。以下同様に、27個までなら3回で、81個までなら4回で判明し、ここから、法則の意味が理解できるでしょう。公式や法則は、丸暗記しても忘れますから、その理由や具体的な手順を理解することが大事です。

【正解】3

寺本康之

埼玉県立春日部高等学校卒業、青山学院大学文学部フランス文学科卒業、青山学院大学大学院法学研究科中退。全国の学内講座で講師を務める。大学院生のころから講師を始め、現在は法律科目(憲法、民法、行政法など)や行政科目、社会科学、人文科学、小論文、面接指導など幅広く講義を担当している。著書
 ・寺本康之の小論文バイブル(年度版)
 ・寺本康之の憲法ザ・ベストハイパー(いずれもエクシア出版)他多数



今回は、専門試験における法律科目と行政科目の出題を振り返り、難易度、出題傾向、翌年受験者へのアドバイスなどをしていきます。

1. 国家一般職

(1) 法律科目

【憲法】

人権から3問、統治から2問出題されました。全体的な難易度はそこまで高くありませんが、**人権の出題が厄介**です。No.11は法の下での平等からの出題でしたが、肢5が議員定数不均衡の知識を問うものとなっており、面食らった受験生が多かったようです。また、No.12は今まであまり出題されたことのない判例が出題されました。「裁判員裁判の合憲判決」や「群馬司法書士会事件」は応用判例という位置づけになります。今回出題されたことに伴い、来年度以降、他の試験での出題が予想されますので十分注意したほうがいいでしょう。概ね3問は得点したいところです。

【行政法】

行政法は行政法理論から2問、法分野から3問出題されました。例年であれば法分野からの出題が難しくなる傾向にありますが、今年はそのままで難しくありません。No.18が行政不服審査法からの出題となっていたため得点できなかった受験生がいたかもしれませんが、そのほかは取消訴訟の訴訟要件や国家賠償法の知識を問うものとなっていたため、**予想どおりの出題**といっていいいでしょう。しっかり勉強をしていた人であれば4問は得点できたのではないかと思います。

【民法】

「総則・物権」の科目は、No.22が無効と取消しに関する出題であり、マイナーテーマからの出題となっています。また、No.25は受験生が苦手とする物上代位からの出題となりました。したがって、普通に勉強している人は3問得点できたのではないのでしょうか？ **担保物権から2問出題されるのが国家一般職の特徴**となっていますので、来年度以降もこのような配分になると考えられます。

「債権・家族」の科目は、かねてからの予想どおり、No.27で連帯債務からの出題が見られました。私としては連帯債権も危ないのではないかと考えてはいたのですが、今回は連帯債務のみの出題となったため、難易度は高くありません。一方、No.28がマニアックな出題です…。契約の成立については、ほとんどの受験生がノーマー

クであったと思われるので、得点できた受験生は少ないと予想されます。家族分野は、遺言からの出題(No.30)が見られました。**近時、改正されたテーマ**であっただけに注目していた受験生も多かったはず。概ね3問得点できていれば及第点です。

(2) 行政科目

【政治学】

毎年難しいといわれる政治学ですが、**今年はそこまで難しくありませんでした**。ただ、No.1、No.2の2問連続で政治思想が出題された点や、No.5で第二次世界大戦後の我が国の内閣が出題された点はややイレギュラーだったといえるでしょう。ただ、今年に限って言えば、基礎的な学習が進んでいる方であれば、3問は得点できたはず。

【行政学】

全体的に難易度が高く、ハズレ年といえます。断片的な知識で正答を出さなければならず、**過去問で対応できるレベルを超えています**。実際の受験生も「今年の行政学は難しかった…」と嘆いている人が多かったように思います。もし、来年以降もこの傾向が続くようなら、行政学自体を選択しないというのも一つの手です。

【社会学】

No.60の国際社会の変化に関する出題以外は、**いずれも過去問レベル**です。近時、社会学は易化傾向にあります。私の印象だと、国家一般職の社会学は出題されるテーマが幅広く、学者も新しい人がどんどん出てくるイメージでしたが、基礎的な出題にシフトしてきているように感じます。私の「社会学ザ・ベストプラス」で勉強していた方であれば、4点は取れたと思います。

2. 特別区I類

(1) 法律科目

【憲法】

特別区は例年人権から2問、統治から3問出題されますが、今年是人権の2問が両方とも簡単だったため、満点をとれた方も多かったようです。ただ、No.3の内閣に関する記述は、やや細かめの知識が正答肢になっているため、難しいといえます。なお、**憲法はいかに統治で失点しないかが大切**です。過去問を何度も解いて知識を固めていくことの重要性を改めて感じました。概ね4問は引っ張りたいですね(特別区は選択解答なので)。

【行政法】

行政法理論から2問、法分野から3問出題されました。

No.6は法律による行政の原理を問われていますが、意外と得点できなかった人が多い印象を受けます。最初に勉強するテーマなのに…とショックを受けている人もいましたね。法分野の問題としてはNo.8(意見公募手続)がかなりマニアックなテーマからの出題となっていますので得点できなかった人も多いでしょう。総じて、3~4問引っ張れば御の字です。特別区の場合は、**法分野からの出題で安定的に得点できるようになると点数のブレがなくなります**。

【民法】

「総則・物権」の科目は、総則から2問、物権から2問、担保物権から1問の出題となりました。注目すべきはNo.12の無効又は取消しについてです。**国家一般職でもこのテーマが出題されていたので、今年の流行の出題**といえます。また、No.14が地上権からの出題となっており、直近で出題されていただけに予想が外れました。ただ、それ以外はオーソドックスな出題となっていますので、3問引っ張れば及第点です。

「債権・家族」の科目は、No.16が連帯債務からの出題でしたので、予想どおりでした。これも国家一般職と共通のテーマであり、流行の出題といえます。契約法からの出題がみられなかったのが特徴的で、**来年は契約法からの出題があると考えてよい**でしょう。普通に勉強している方であれば、3~4問は引っ張れたという印象です。

(2) 行政科目

【政治学】

今年**は典型テーマからの出題**が目立ちます。No.41の政治的無関心やNo.42のイギリスの政治制度、No.45の国家論は非常に簡単な問題です。このあたりを落としてしまった方は反省したほうがいいでしょう。特別区の政治学はここ数年難しい出題が続いていただけに、拍子抜けした方もいらっしゃると思いますが、できれば5問すべてを引っ張りたいところです。

【行政学】

テーマこそオーソドックスですが、難しい知識を問う出題がちらほら見られますので、今年**はハズレ年**といっていいいでしょう。特にNo.47の会計検査院の出題やNo.48の行政責任は難易度が高めです。このような問題を避けて、なんとか3問引っ張れば理想的です。ただ、**基本的には過去問の知識の焼き直しが多いので、過去問演習をいかに徹底するかがカギ**となってくるでしょう。

【社会学】

穴埋め問題が多く、得点しやすい年でした。No.55が社会調査からの出題で、多くの受験生が苦手とするテーマではありますが、内容としては非常に簡単だったので、問題なく得点できたはず。社会学もおおむね過去問レベルの出題が目立ちました。4~5問引っ張れたのではないのでしょうか？

3. 東京都I類B

東京都I類Bは専門記述という形式で法律科目と行政科目の出題があります。そこで、今回は専門記述の出題テーマから見える難易度を分析します。

(1) 法律科目

憲法、民法、行政法の3科目の出題は以下のとおりです。

【憲法】労働基本権及びその制限について説明せよ。

【行政法】行政行為の付款について、付款の限界及び付款が違法な場合の効力に言及して説明せよ。

【民法】錯誤による意思表示について、平成29年の民法改正における改正内容とその背景に言及して説明せよ。

憲法と行政法は比較的書きやすいテーマからの出題といえますが、民法は平成29年の改正事項を問われており、正確な記述をすることはかなり難しいでしょう。法律を専門的に学んできた方以外は対応できない問題といえます。**専門記述の法律科目はある程度予想をしつつ、メリハリをつけて対策**をしていく必要があります。

(2) 行政科目

政治学、行政学、社会学の3科目の出題は以下のとおりです。

【政治学】リーダーシップの特性理論及び状況理論について述べた上で、「伝統的リーダーシップ」、「代表的リーダーシップ」、「投機的リーダーシップ」及び「創造的リーダーシップ」について、それぞれ説明せよ。

【行政学】日本の官僚制の特徴について説明せよ。

【社会学】ウォーラスティンの世界システム論について説明せよ。

政治学と行政学は書きやすいテーマといえますが、社会学はどちらかといえば国際関係の出題テーマですので、ほとんどの受験生が書けていないものと思われる。**政治学か行政学のどちらかを書ければ及第点**です。

4. 地方上級・市役所A日程

地方上級・市役所A日程は試験問題を持って帰ることができないため、詳細な出題分析はできかねますが、受験生から入ってきている情報をまとめると、いくつか特徴が見えてきます。

①**専門試験が例年に比べそこまで難しくなく**

②**法律科目がオーソドックスな出題となっていた**

③**行政学は時事的な知識が含まれるものが多かった**

地方上級・市役所A日程は、他の試験よりも専門試験が得点しにくいのですが、今年**はそんなことはなかった**ようです。少し難易度を落としたのか、あるいは典型的なテーマから出題したのか、どちらかが原因と考えられます。報告を見ている限り、今年**は②にあるように法律科目の出題テーマが例年と比べて典型的だ**ということに気づきました。これが今後続くのかは未知数ですが、少なくとも例年に比べて、解きやすかったという評価は正しいものと感じました。

高橋義憲

千葉商科大学政策情報学部非常勤講師、公務員試験予備校講師。
資格試験予備校、金融機関、マスコミ業界を「講師」として渡り歩き、2013年に独立。
公務員試験や各種資格試験の受験指導のほか、全国の企業や大学などで、日本経済新聞の読み方、
企業情報の採り方、景気指標の見方などの指導も行っている。
著書
・マップでわかる経済学 マクロ編/マップでわかる経済学 ミクロ編 (いずれもエクシア出版)



皆さんこんにちは。本稿では、2022年度の経済系科目(ミクロ、マクロ、財政学)の出題傾向を振り返り、来年度の試験に向けてどのような対策を講じれば良いか述べておきたいと思います。まずは、試験問題が公開されている試験種ごとに簡単に振り返っておきましょう。

1. 国家一般職

ミクロ経済学(5問)は、標準的なレベルの内容でした。ただ、「長期費用関数の導出(No.33)」は、ここ数十年全く出題が見られなかった問題。解けなくても仕方がないでしょう。ゲームの理論の「支配戦略均衡の条件(No.35)」も冷静に考えれば何てことのない問題ですが、問われ方に不慣れな受験生は一定数いたと思われる。5問中3~4問得点したいところです。

マクロ経済学(5問)も標準的。「フィリップス曲線(No.38)」と「新古典派経済成長理論(No.40)」で失点した受験生が多かったと思われます。実は、「新古典派経済成長理論(No.40)」の問題は、計算問題に見えて知識モノの問題。ソローモデルにおいて、一人当たりの消費を最大にする貯蓄率(第二黄金律)は、資本分配率(1/2)に一致します。このことを知っていれば、満点も可能だったでしょう。

最後に、財政学・経済事情(5問)は、難しい内容でした。「財政状況(No.42)」は、国家専門職と同様に、令和元年度からの比較問題で、判断が難しい内容であったと思います。「我が国の経済動向(No.43)」も細かい内容が問われており、「各国の政策金利の推移(No.45)」も今年度に関しては盲点となっていた受験生が多かったように思われます。よって、「我が国の財政制度(No.41)」と他1問を得点し、5問中2問といったところではないでしょうか。

2. 国税専門官

経済学(4問)については、財務、労基と共通問題である「新古典派経済成長理論の計算問題(No.26)」は難しかったものの、その他の問題は基本的な問題。4問中3問は得点したい。

経済事情(2問)では、やはり「世界経済事情(No.28)」の英国とユーロ圏の判断が難しかったと思います。

財政学(6問)については、財務専門官と同様で、やや難しめの内容。「年金の財政方式(No.30)」は出題頻度が低い問題ですし、社会政策の学習も必要な問題で

あったと思います。「租税制度(No.32)」は地方税を含めた内容で名称を「法人税」、「消費税」とするなど厳密性を欠き、戸惑われた方も多かったでしょう。また、「財政状況(No.33)」は、令和元年度からの比較問題で、判断が難しい内容であったと思います。

3. 財務専門官

ミクロ(3問)は基本問題で、すべて容易に得点できる問題でした。

一方、マクロ(3問)の「マネーストック統計(No.18)」と「新古典派経済成長理論の計算問題(No.20)」は、多くの受験生にとって難しかったのではないかと思います。

財政学(6問)については、やや難しめの内容。「年金の財政方式(No.22)」は出題頻度が低い問題ですし、社会政策の学習も必要な問題であったと思います。「租税制度(No.24)」は地方税を含めた内容で、名称を「法人税」、「消費税」とするなど厳密性を欠き、戸惑われた方も多かったのではないのでしょうか。また、「財政状況(No.25)」は、令和元年度からの比較問題で、判断が難しい内容であったと思います。

経済事情については、「世界経済事情(No.40)」の英国とユーロ圏の判断が難しかったと思います。正答率は低くなっていることでしょう。

4. 労働基準監督A

財務専門官と同様に、ミクロ(4問)は基本的で、マクロ(5問、財政1問含む)はやや難しい内容でした。ミクロで出来・不出来が分かれたのは「最適労働供給(No.32)」でしょう。弾力性の小さい(非弾力的)企業側の税負担が大きくなることや、課税によって労働者の労働供給量は変化せず、したがって雇用量にも影響がないことを知っていれば正解に辿り着けたはずでした。

マクロでは、財務専門官と共通の問題である「マネーストック統計(No.35)」と「新古典派経済成長理論の計算問題(No.36)」は、やはり難しかったのではないかと思います。

経済史・経済事情(4問)は標準的な内容。ただ、やはり「世界経済事情(No.40)」では英国とユーロ圏の判断が難しかったと思います。

最後に、労働経済(3問)については、「期待効用最大化(No.42)」と「人的資本論(No.43)」は頻出論点な

ので、労基対策をしっかりと行っていた方は得点できたでしょう。「労働経済の状況(No.44)」も正解肢は容易だったので、正答率は高かったのではないのでしょうか。

5. 裁判所一般職

ミクロ分野、マクロ分野ともに、基本・標準レベルの問題でした。同じ選択科目である「刑法」も比較的易化したようですから、どちらを選択すべきか悩まれた受験生も多かったのではないのでしょうか。今年度の問題でちょっとだけ厄介だったのは、「ラスパイレス物価指数の計算(No.31)」、「ハロッド=ドーマー=モデルの計算(No.35)」でしょう。物価指数の計算と言えば、「GDPデフレーター(パーシェ方式)」が出題の基本ですが、「ラスパイレス物価指数」は過去の頻出度は低いですが、取りこぼした受験生が結構いたのではないかと思います。また、「ハロッド=ドーマー=モデル」では、保証成長率と自然成長率の計算に必要な最適資本係数、貯蓄率、労働人口増加率を、問題文の与式から読み取れるかがポイントです。これは平成初期に他の試験種で散見されたパターンで、公務員試験の過去の傾向が復活したと言えるでしょう。

6. 特別区I類

ミクロ(5問)、マクロ(5問)、財政学(5問)ともに、基本的な問題ばかりでした。市販されている問題集を使って基本・標準的な問題を繰り返し演習していた受験生は、難なく高得点を得ることができたでしょう。逆に言えば、経済系の科目を「捨て科目」として学習しなかった方は、かなり損をしたと言えるのではないのでしょうか。

ただし、特別区の例年の傾向ですが、各科目1問、ちょっと難しめの問題が出題されています。「公共財の最適供給量の計算(No.25)」(ミクロ)、「産業連関表の計算(No.29)」(マクロ)、「ジニ係数の計算(No.35)」(財政学)は、難問と言うほどではありませんが、かなりの練習をしていないと正解できなかったのではないかと思います。とはいえ、選択解答制ですから、選ばなければ良いだけです。全15問中12問得点することは十分可能な内容でした。

7. 東京都I類

経済学は「マンデル=フレミング=モデル(財政政策の有効性)」、財政学は「応益負担(応益説)と応能負担(応能説)」で、平成30年度の本試験問題の“焼き直し”で、完全に意表を突かれました。驚かれた受験生も多かったのではないのでしょうか。「マンデル=フレミング=モデル」では、グラフを使って財政政策の効果に至るプロセスが示しているか、「応益負担(応益説)と応能負担(応能説)」では、各説の定義、主な学者、受益と負担の関係、支払能力との関係を示しているかがポイントでしょう。いずれの論点も基本的で、択一对策で得た知識で十分解答可能ですから、多くの受験生にとって解答しやすい問題だったのではないかと思います。今後は、直近で出題された問題であっても、典型論点については基本的な対策を行っておくべきでしょう。

【来年度に向けて】

今年度の傾向を見る限り、経済系科目について特別な対策は不要でしょう。市販されている公務員試験向けの問題集から基本・標準的な問題をピックアップし、特に計算問題を繰り返し解いて解法パターンを身に付ける、といったオーソドックスな学習でOKです。以下の点を留意して、来年に向けた学習に取り掛かって下さい。

①ミクロ、マクロについては、細かい知識のインプットにこだわらない

インプットに時間をかけすぎてしまい、アウトプットがよい加減な学生が多く見受けられます。「問題を解くための学習である」とさわやかに割り切って、アウトプット中心の学習を心がけて下さい。講義ではしつこく言うのですが、“体に覚えさせる”感覚で問題演習に動んで下さい。

②1~2日に1問、難しめの問題にトライする

1~2日に1問程度で結構なので、難易度の高い問題にトライしてみてください。試験会場で未知の問題に直面したときに、“答えをひねり出す”練習をするのです。問題数を欲張る必要はありませんし、無理に解法を覚える必要もありません。頭と手を動かさず練習を是非して頂きたいのです。これを心がけていると、他の受験生よりも頭一つ抜き出ることができると思います。

高橋義憲の



資格教育研究所



好評発売中!



自然科学LOVE

～自然科学を勉強する
メリット・デメリット～



柴崎直孝

2004年より大手予備校にて公務員試験対策の講義(数的処理・自然科学)を担当。受験生目線に立った「誰でも使える解法」と「現実的な戦略」を熱血指導で分かりやすく教え人気を博す。2013年より関東学園大学の専任講師に着任。

満点を取る必要がない公務員試験において、ある程度の捨て科目は生じます。まして、数的処理に比べれば出題数が少なく、苦手意識を持つ受験生も多い自然科学は捨て科目の筆頭と言えるかもしれません。

しかし、捨て科目は安直に考えていいものではありません。自然科学に限らず、知識系の科目は勉強するメリット、デメリットが存在します。それを把握したうえで科目の取捨選択を行えるようになるのが理想です。そこで、本記事では生物、地学、化学、物理4科目のメリット、デメリットを紹介します。

■ 生物 ■

〈メリット1：知識問題が中心〉

計算問題が少ないので、計算が苦手な受験生も取り組みやすいです。また、生物は高校生のときに授業で習ったことがあるのも有利に働きます。

〈メリット2：ほとんどの試験で出題される〉

生物は多くの試験で出題されます。ほとんどの受験生は併願を考えているでしょうから、なるべく多くの試験で出題される科目を勉強したいところです。

〈デメリット1：範囲が広すぎる〉

生物は範囲が広いので広範囲を勉強することが不可能です。さらに本番の試験で見たことがないような単元が出る確率も高いです。取り組みやすい反面、実はコストパフォーマンスはそこまで高くありません。

〈デメリット2：順番どおりの勉強が必要〉

生物の頻出と言えば「遺伝」です。しかし「遺伝」を学ぶには「染色体」を始めに学習する必要がありますし、「染色体」を学ぶには「細胞」を学習する必要があります。このように土台となる単元があるので絞った学習がしづらいです。

■ 地学 ■

〈メリット1：範囲が狭い〉

生物とは違い範囲が狭いです。もちろんマニアックな内容が出ないこともないですが、その可能性は生物と比べると低いです。例えば、特別区のように生物と地学の出題数が同じ試験であれば地学を勉強したほうがコストパフォーマンスは高いです。

〈メリット2：分野ごとに独立している〉

地学は各単元が独立しているのですどの単元からでも始められます。自身が受験する試験の傾向に絞った学習がしやすくなります。

〈デメリット1：出題されない試験がある〉

東京消防庁のように地学が出題されない試験もありますので気を付けてください。

■ 化学 ■

化学は大まかに「理論化学(知識・計算)」「無機化学(知識)」「有機化学(知識)」に大別されます。

〈メリット1：知識問題が出題される〉

公務員試験の化学では暗記だけで対応できる知識問題が出題されます。特に無機化学に多いです。無機化学だけでも勉強しておくことで強力な武器になります。

〈デメリット1：頻出の計算問題が難しい〉

化学で一番人気の「化学反応式の量的関係」は習得するのに時間がかかります。一番人気ですのでもできれば勉強してほしいですが、難しければ捨ててしまうこととなります。

〈デメリット2：暗記よりも理解することが多い&最初から順番に学習していかなくてはならない〉

まずは「原子の構造」を理解して、「イオン化」「化学結合」と原理を踏まえて学習しないと、その後の「酸化還元」といった頻出分野の学習が苦しくなります。

〈デメリット3：有機化学〉

有機化学は知識問題がメインですが、理論化学の「原子の構造」「化学結合」「構造式」が理解できているのが大前提になります。それを踏まえての「暗記」ではなく「理解」になります。また、有機化学は範囲が広く、全てを学習するのは困難です。

■ 物理 ■

物理は「力学」「熱」「波動」「電磁気」「原子物理」に大別できます。

〈メリット1：範囲が狭い〉

地学に次いで範囲が狭いです。特に「力学」「波動」「電気(磁気は除く)」に集中しているのである程度絞った学習ができます。

〈メリット2：簡単な単元が多い〉

難解なイメージがある物理ですが、簡単な単元もあります。例えば「衝突」「力学的エネルギー保存則」は簡単な公式で解けますし、「波の性質」は知識問題です。

〈デメリット1：頻出分野が難しい〉

頻出分野の「力のつり合い」や「運動方程式」「電気回路」は計算が苦手な受験生にとって難解です。

受かる！面接対策

＊短期間でも公務員試験の
面接は攻略できる＊



吉田和敏

公務員試験対策指導塾「松村塾」代表。能美市役所にて5年間、企業誘致・人口減少対策などの施策推進に尽力する。市役所を退職後、松村塾を開業。公務員時代の経験を活かし、分かりやすい指導を徹底することで、県庁社会人枠などの難関試験で大勢の合格者を輩出する。

近年、公務員試験においては対策に時間を要する筆記試験(教養・専門)を撤廃し、SPIなど民間と同じ筆記試験を採用する行政機関が増加傾向にあります。そのため、筆記試験の勉強をしてきただけでは合格が難しくなっています。「公務員試験は面接重視になっている」と聞くと、皆さんどう対策していいかわからなくて、「やっぱり公務員試験は難しい!」というイメージを持ってしまっている方が多いと思います。特に、公務員の中でも事務職は、普段どんな業務を行っていて、どんな役割を担っているのか把握することが難しいです。だからこそ、公務員試験において、適切に仕事理解を進めて面接対策する重要度が高まっています。

では、公務員試験の面接ではどんな対策が必要でしょうか。結論から言うと、**仕事理解と求められる人物像を把握し、自分がなぜその職種・行政機関に就職したいのか、どのようにその行政機関に貢献できるのか明確にイメージを持って説明できれば、合格することができます。**面接対策は、従来の筆記試験(教養・専門)のように膨大な時間は必要ありません。新卒の方の場合は当塾で4時間指導を受けただけで、合格ラインまで面接対応力を向上できる方が多いです。なぜなら、公務員試験の面接では、大抵聞かれる質問が決まっているので、それらの質問に対する正しい対策を行い、面接官が求める回答ができるようになれば、合格できるからです。

一方で、面接対策に時間をかけたにも関わらず、落ちてしまう方が多いことも事実です。彼らが失敗してしまった原因は、間違った面接対策をしていたことが挙げられます。「志望動機、自己PRができた!」と安心して、模擬面接でも問題ないと言われて試験に挑んだ結果、志望動機や自己PRに関するエピソードを深掘りされ、うまく答えられなくて撃沈した方がいます。例えば、「私の強みは交渉力」と言っているにも

関わらず、エピソードを深掘りすると、ただメンバーに依頼しただけの話だったりします。また、志望動機に関しては、希望する行政機関の役割を挙げ、それに興味を持ったという浅い内容で、生涯その行政機関に勤める意志があるのか疑問を感じる回答だったりします。地方自治体を志望する方は、あえてこの自治体を選んだ理由が曖昧で、あまり熱意を感じない答えだったりします。さらに、業務理解が乏しいまま受験し、公務員として何がしたいのかビジョンが見えてこない方も多いです。他にも、人格を問う質問で、公務員として求める人物像と異なる回答をしてしまい、組織に馴染めるのか、住民対応は問題ないのか疑問を持ってしまうことがあります。これらの敗因により、公務員試験に落ちてしまう方が多いので、民間企業とは異なる面接対策が必要となります。逆に言うと、**これらの要点を押さえて、しっかり対策すれば公務員試験の面接は短期間でも攻略可能**というわけです。

最後に、面接対策を行う上で大事なことを伝えます。行政は、人口減少・少子高齢化など様々な社会課題がある中で、これらの課題に対処できるバイタリティとコミュニケーション力がある人材を求めています。そのため、自分一人で勉強を頑張ったというエピソードはあまり評価されません。**周りの人と何か取り組んだエピソードがない方は、些細な事でもいいので、今すぐ作る努力をしていただきたい**と思います。誰にでも自慢できる立派なものなくても大丈夫です。面接では、あなたがどのように主体的に行動してきたか、何を頑張ったのか努力の過程を重視します。そこで、あなたが本気で頑張ってきたこと、苦労して成長したことをPRできれば、合格を勝ち取ることができます。公務員試験の面接を過度に恐れることなく、対策すべき要点を踏まえて、自信を持って挑んでいただきたいです!

公務員試験対策予備校
松村塾
Matsumura private school

- 採点者に刺さる論文試験の添削
- 面接官がうなるES添削
- 合格を決める面接対策・プレゼン指導

好評発売中!